

## 前回までの議論の整理

主な論点・意見	対 応
1 観光客のニーズに合ったお土産等が提供できていない。	P37の個別事業の(22)で「新得のおみやげ」の開発」を記載しています。
2 観光客が欲しい情報を伝えられていない。	P30の方向性の柱(2)観光産業の活性化で「④観光関連情報の情報発信能力の強化」を記載し、P37の個別事業の④で具体の事業を記載しています。
3 サホロ地域の観光客をどのようにして市街地へ足を運ばせるか。	P35の個別事業の(10)で「夏季及び冬季の繁忙期における市街地とサホロ地域を結ぶ循環バス運行の充実」、P38の(30)で「観光ルートの作成・提案」を記載しています。
4 神社山は観光資源としての可能性がある。	P35の個別事業の(3)で「神社山の観光資源化」を記載しています。
5 狩勝高原園地再整備について、町民の理解を得て観光を盛り上げて行くにはどうしたらよいか。	P35の個別事業の(1)で「狩勝高原園地再整備」を記載し、P40の個別施策(事業)Pick Upでも取りあげています。本年8月に町民向けの説明会を開催し、8月～9月でパブリックコメントを実施し、町民の意見を聞いています。
6 観光事業者間で連携すれば情報交換ができ、そこから新しい可能性が広がる。	P38の個別事業の⑥で「観光施設間の連携推進」とし、具体の事業を記載しています。
7 富良野やトムムといった近場の観光地ともうまく連携して観光ルートをつくってはどうか。	P38の個別事業の(30)で「観光ルートの作成・提案」、(36)で「他地域の観光施設との連携」を記載しています。
8 観光客のニーズを把握して、受入対策の充実を図らなければならない。	P35の個別事業の②で「外国人観光客誘致活動」とし、Wi-Fi環境の整備や循環バスの運行、ホームページの充実、多言語対応等について記載し、P36の③では「観光客を迎え入れるホスピタリティ能力の向上」について記載、P39の①では「町民の観光意識の向上」とし、観光客の受入のための町民意識の向上について記載しています。
9 町民みんなが観光案内人になればいい。	P39の個別事業の(37)で「新得魅力再発見ツアーの実施」とし、町民自身が案内人となるよう促すこととしているほか、(41)で「町民による情報発信」とし、町民が積極的に観光客を案内するような素地を醸成することとしています。

主な論点・意見		対 応
10	冬の駅前イルミネーションを拡大し、安価なLEDソーラーライトで恒常的に市街地等を照らしたり、商店街のシャッターにペイントするなど、さびれたイメージを払拭し、地域の魅力向上につなげられないか。	イルミネーションの市街地への拡大や商店街のシャッターのペイントなどは、関係先の合意など一定の意思統一が必要であることから、ビジョンの中で「実施する」と明言することはできませんが、P35の(4)で「JR新得駅前の花壇整備及びイルミネーション設置の継続」の中で、工夫しながら継続していくこととしています。
11	新得は鉄道の町なので、短距離でも川沿いにSLを走らせるなど、もともとある資源を生かした集客ができないか。	SLを走らせるには多額の費用がかかるため、ビジョンの中で「実施する」と明言することはできませんが、P37で「②産業遺産を活用した観光振興(産業観光)」で「旧狩勝線の魅力PR」を記載しています。旧狩勝線は重要な観光資源であるので、狩勝高原園地再整備と併せてその有効利用について検討します。
12	計画期間を10年としているが、短期・中期・長期で施策(事業)によって分けて考えてもよいのでないか。	P35からの個別施策(事業)で、項目ごとに短期・中期・長期の分けを記載しています。(実施時期又は実現時期で記載しています)
13	通過型から滞在型の観光にするため、民泊を推進できないか。	P39の個別事業の(42)で「民泊の推進」を記載しています。
14	インバウンド対策について、伝えたいことがうまく伝わらないなど、対応に苦慮している。外国語表記のサインが少ない。SNSでの情報発信が有効。	P35の個別事業の②で「外国人観光客誘致活動」でインバウンド対策について記載しています。
15	町民が観光振興についてどれくらい意識し、受け入れる気持ちがあるのか。その対応ができないと観光振興ビジョンをつくってもうまくいかない。	P39の「(3)地域への誇りと愛着の醸成」の中で「①町民の観光意識の向上」「②町民との協働による観光地域づくり」を記載し、観光についての意識向上を図ることとしています。また、P1の「はじめに」やP49の「町民・事業者の役割」でも町民が新得町のことを知り、観光意識を向上させることの重要性について記載しています。
16	新得町にある素晴らしい施設が十分活用されていない。イベント等で活用できないか。	P36の個別事業の④で「イベントの充実等による新得町の魅力発信」を記載しているほか、各個別事業の実施により、施設の活用が図られるように努めます。
17	観光振興に否定的な意見を言う人の意識を変えるのは難しいので、やる気のある人をバックアップする。	P39の個別事業の(40)で「意欲的な事業者への支援」を記載しています。
18	観光協会が事業収入を得て独立してやっていくにはどうしたらよいのか。	P48に収益事業の事例を記載しています。具体的な検討は法人化に向けた議論の中で行われます。